

第15代 中山沃観の事績

大正14年（1925）5月16日 — 平成24年（2012）5月24日

旧姓・蒲原（かんばら）。新潟県新潟市の浄土真宗本願寺派・蒲原浄光寺の次男として生まれる。

年	年齢	事項
大正14年（1925）	0	5月16日、蒲原浄光寺第25代蒲原霊英の次男として誕生
昭和18年（1943）	17	新潟中学校卒業
昭和20年（1945）	19	新潟高等学校を繰り上げ卒業
昭和24年（1949）	23	新潟医科大学卒業。米子医科大学生理学教室助手に就任
昭和27年（1952）	26	第14代中山琇静の養子となる
昭和32年（1957）	31	岡山大学医学部生理学第二講座助教授に就任
昭和37年（1962）	36	文部省在外研究員として2年間ゲッティンゲン大学（西独）に留学
昭和39年（1964）	39	名塩教行寺第15代住職となる
昭和45年（1970）	44	岡山大学医学部生理学第二講座第2代教授に就任
昭和53年（1978）	52	長男英観に住職を譲り隠居
昭和61年（1986）	60	中国吉林省延边医学院名誉教授（第1号）称号を受ける
平成3年（1991）	65	岡山大学定年退官。岡山大学名誉教授の称号を受ける
平成17年（2005）	79	瑞宝中綬章受章
平成24年（2012）	88	5月24日、往生。瑞宝中綬章受章に伴い、正四位を追贈

俗名・中山沃（そそぐ）。昭和27年、伯父である当寺14代住職・中山琇静の養子となり、琇静の娘・芳子と入籍し、昭和39年に当寺15代住職となった。昭和53年に長男英観に譲るまでの約15年間、岡山大学で勤務しながら住職を務め、隠居となった後は、境内や集会所などの整備、所蔵品整理に尽力した。また、名塩出身の上中啓三がアドレナリン発見の功績者であること知り、昭和56年、有志を募って境内に顕彰碑を建立した。これが契機となり、縁者から「実験ノート」が当寺に寄贈され、平成22年、このノートは「上中啓三のアドレナリン実験ノート」として日本化学会化学遺産（第002号）に認定された。

晩年は、在職時代から研究していた医史学、特に幕末から明治期における医学の近代化や適塾の研究に没頭した。癌の告知を受けた後も、遺作となる『緒方惟準伝 緒方家の人々とその周辺』の執筆をつづけ、痛む身体をおして校正をおこない、平成24年3月に出版した。弔辞は自ら友人らに依頼し、遺影も用意し終えて、同年5月3日、神戸別院で執り行われた孫・瑤恵の結婚式に参列した。「これで思い残すことは何もない。芳子のことだけは頼む」と遺言し、同月24日、満88歳にて往生した。葬儀は当寺で執り行われた。

著 書

『岡山の医学』（日本文教出版、1971年）

『消化管の運動』（中外医学社、1979年）

『備前の名医 難波抱節』（御津町・山陽新聞社、2000年）

『緒方惟準伝 緒方家の人々とその周辺』（思文閣出版、2012年） など